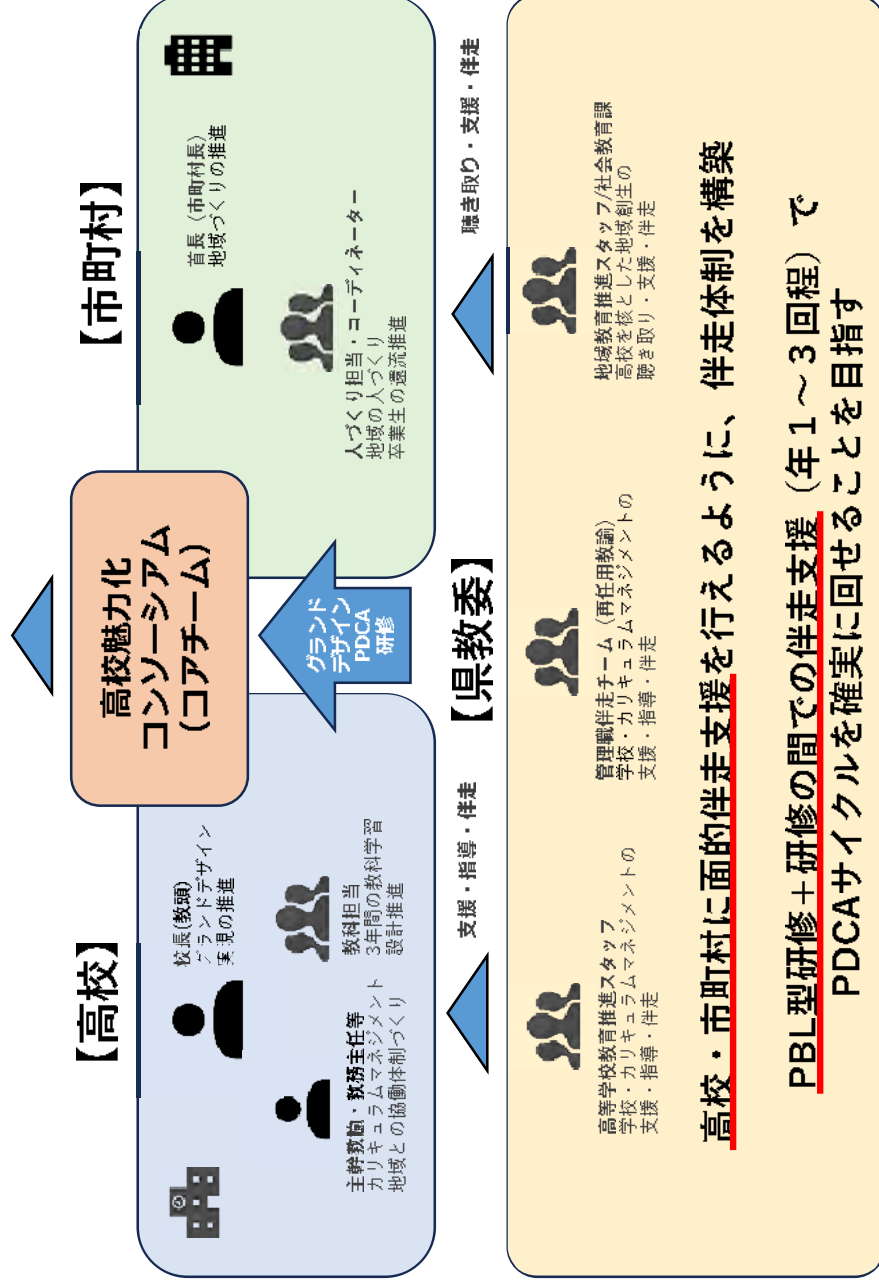


グラントデザインの実現



教育魅力化人づくり事業費交付金

項目	対象経費	対象者	事業費上限(年額)	県交付率
コンソ 運営支援	運営費	・コンソ ・市町村	600千円/コンソ	1/2
	運営マネージャー		7,000千円/コンソ	
高校魅力化教育活動推進事業	地域連携教育活動推進費	・コンソ ・協議会 ・高校	・3,500千円/高校 ・分校、定時制、通信制 1,000千円/校	10/10
	しまね留学		300千円/高校	
	学校・地域創生推進費		申請に応じて所要額を交付	

グラントデザインを実現させる
“伴走支援”とは？

“伴走”ということと自体を探究

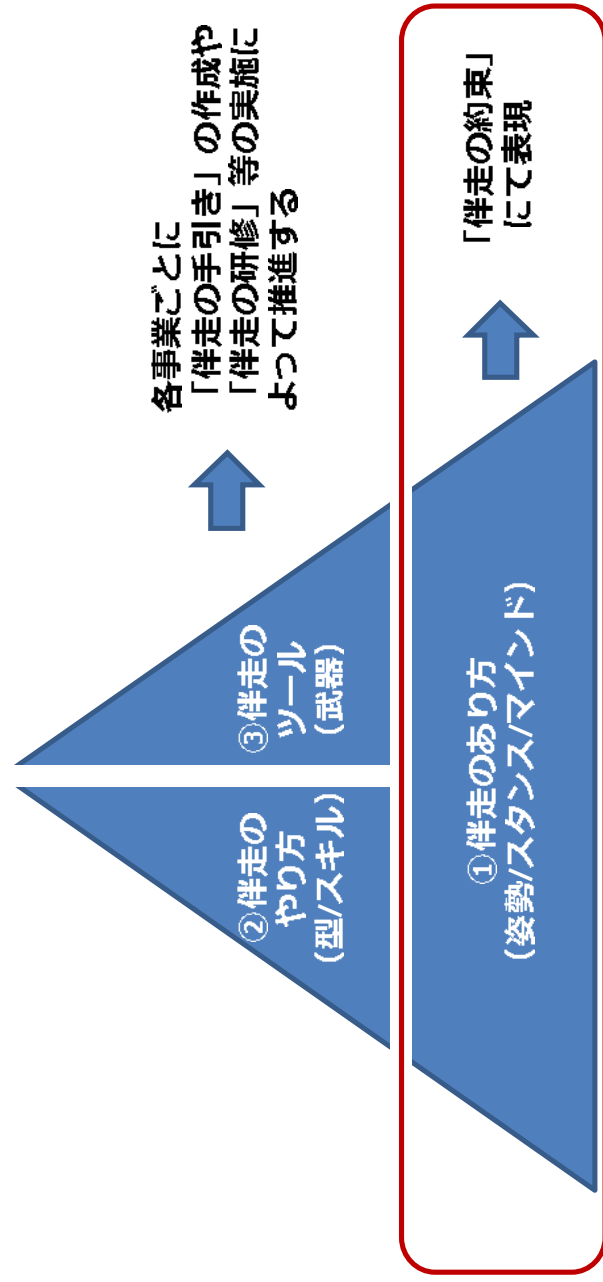


伴走のあり方・やり方の可視化・共有

「伴走の約束」策定プロジェクト

「伴走支援」を進めるために考えるべきポイント

- 「伴走のやり方」の根底に流れる、「伴走のあり方」を教育庁内で揃えていくことが重要。
- すでに様々な場面で学校への伴走支援は行われているため、そこで意識され、大切にされてきた、スタツプ一人ひとり行動指針を「伴走のあり方」＝「約束」として抽出していく。



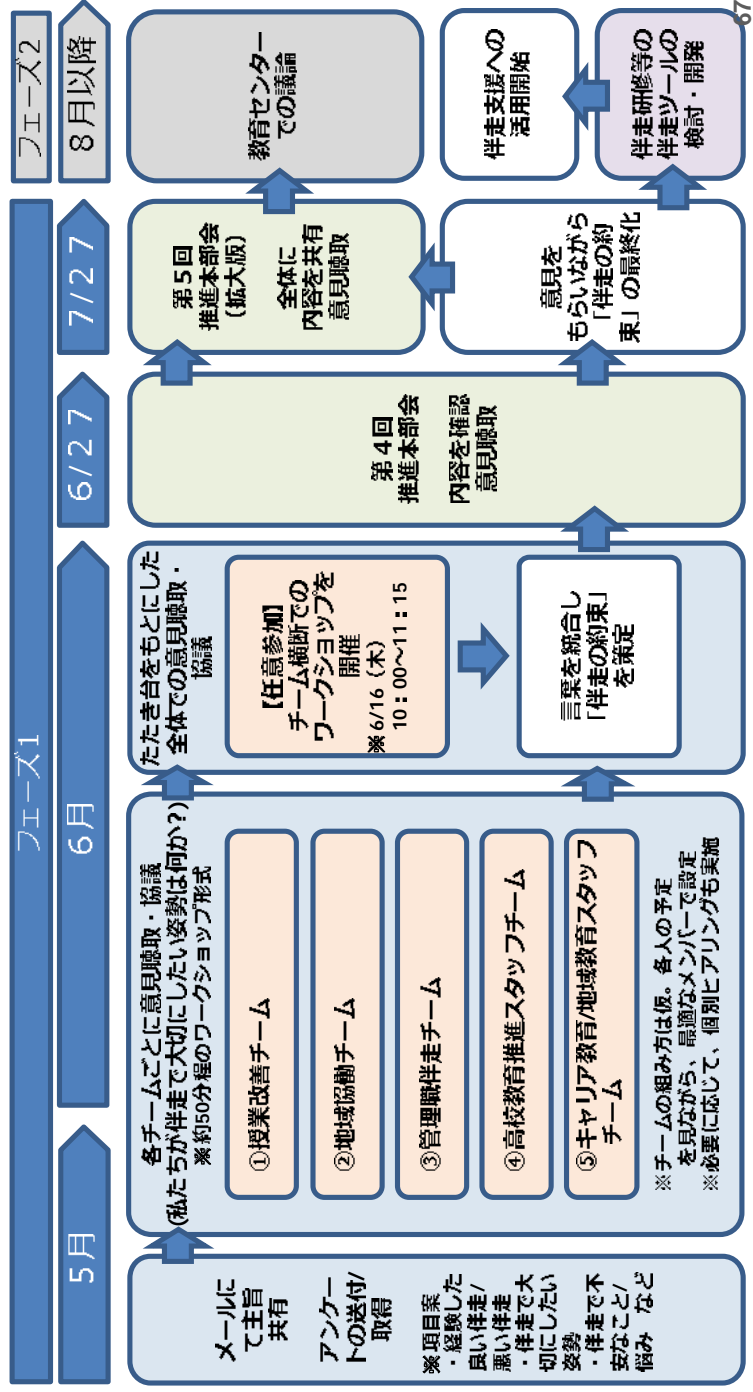
「伴走の約束」と策定の進め方について

- **伴走の約束とは**
 - ・ 各校が掲げるグラウンドデザインの実現に向け、県教育委員会が学校現場を支援する際の「行動指針」
 - ※また、学校現場に訪問する“伴走”だけではなく、
学校現場とのコミュニケーション全般（研修や電話、メール等）も指しています。
- **策定の進め方**
 - ・ 策定プロセスには、教育指導課、教育企画課、教育センターなど、多様な部署が参画する形で策定する
 - ・ 長年、民間企業への伴走支援を行ってきた外部団体と連携・協働し、ワークショツプの設計や意見のとりまとめを行う

(参考) 「伴走の約束」の策定スケジュール

○ 策定スケジュール (22年5月～8月)

- ・ 6、7月の推進本部会を報告・意見聴取の場として位置づける。
- ・ 約1か月半の中で、事前アンケートを取得後、チーム単位での意見聴取・協議の場を設定する。
- ・ 「私たちが伴走で大切にしたい姿勢は何か？」を本質的な問いとして定め、言葉を紡ぐ。
- ・ 8月以降は伴走研修等、伴走ツールの検討・開発に着手し、2学期以降の伴走支援に活用していく。
- ・ また、8月以降は、教育センターでの議論も開始。



(参考) 「伴走の約束」の策定に向けた個別・全体ワークショップの様子

▼個別ワークショップ (約10人参加×2回実施)



※各グループで議論してまとめた模造紙 (抜粋)



▼全体ワークショップ (18人参加)



※ドット投票をしたキーワードシート (抜粋)





※ワークショップの様子 (動画)

(参考) 全体ワークショップのグラフィックレコーディング

※外部パートナーに入ってもらい作成

2022.06.16

伴走の約束 全体ワークショップ

伴走の約束とは?
職員が高校現場に伴走して
いかにあたる宣言文(案)
拠り所となる行動指針

伴走のあり方
(準拠: 29ス、244p)

伴走の
やり方
ルール
(29ス)(244p)

事前アンケート

1. 事前の目線合わせ

2. 「大切にしたい姿勢」3つ 選出

3. ドット投票と全体協議

想像力
寄り添い
聴く
話す
応じる

目的を明確に
伴走
自走するための伴走
伴走の強けと意識
自らの強けと意識

距離感
境界線
想像力
県教委と現場の
バランス

効果... お役立ち感

知の結集
専門
現場の課題
現場の声
学び続ける
イント

県教委
学校

スパシヤリスト
ジェネラリスト
チームで伴走

目的意識
ゴールイメージの
共有

ゴール後モ
サポート

距離感
想像力

事前アンケート

1
2
3

ドット投票と全体協議

効果... お役立ち感

知の結集

想像力

目的を明確に

伴走

自走するための伴走

伴走の強けと意識

自らの強けと意識

距離感

境界線

想像力

県教委と現場の
バランス

効果... お役立ち感

知の結集

想像力

目的を明確に

伴走

自走するための伴走

伴走の強けと意識

自らの強けと意識

距離感

境界線

想像力

県教委と現場の
バランス

効果... お役立ち感

知の結集

想像力

目的を明確に

伴走

自走するための伴走

伴走の強けと意識

自らの強けと意識

距離感

境界線

想像力

県教委と現場の
バランス

▼ワークショップの感想（抜粋）

- ・ 伴走について、自分の中になかった考え・意見をみなさんから聞くことができた。いずれも、自分からは想起されなかったが、言われて「ほんと！その通り！」というものばかりだった。
- ・ 伴走という言葉をぼんやりと自分のなかではとらえていましたが、皆さんと情報を共有する中で、イメージが重なる部分と異なる部分があることをあらためて認識しました。
- ・ 皆さんと気持ちの共有ができたことがとてもよかったです。
- ・ 全体ワークショップでは、協議のキーワードは「チーム」であったと思いますが、その内容もさることながら、このような活動自体が「チーム」の雰囲気醸成に効果を上げていたように感じました。
- ・ 不安に思っていることや困っていることはすぐに相談して、チームで業務に当たることの大切さを再認識しました。
- ・ ワークショップでの話し合いはとても意義深いものだと感じていますが、話の内容は一般論も多く、学校現場のリアルな課題に対して有効に動くかどうか、十分に腹落ちできない部分もありました。設定した課題に対してどのような伴走が考えられるか意見を出し合うといった、「思考実験」的なワークショップをしてみると「伴走の約束」を持っていることの意義がより明確になると同時に、納得感が得られやすいのではないのでしょうか。

伴走の約束

伴走の約束とは、各校が掲げる
ブランドデザインの実現に向け、県教育委員会が
学校現場を支援する際の「行動指針」です

ステップ1

“主体的”に

学校現場を知る

学校現場が置かれている状況や生徒の様子、また、目指したい方向性など、学校現場への深い理解と尊重を持ちながら、伴走することを約束します。

ステップ2

“対話的”に

共に考える

意見を押し付けられるのではなく、学校現場に寄り添い、関係者の思いや意志に耳を傾け、共に考える姿勢を持ちながら、伴走することを約束します。

ステップ3

“深い学び”に

広い視野でつなげる

新しい視点や切り口の提供、また、具体的な事例共有や提案を行い、常に取組が進化していくことを目指し、伴走することを約束します。

学校現場との約束

私たち自身との約束

【学校現場との“伴走の約束”を果たすための心構え・体制】

自らの専門性を磨く

新しい視点や切り口を提供できるようになるため、私たち自身も日々学び続け、自らの専門性を磨きます。

チームで対応する

学校現場の多種多様な課題を共有し合い、知恵を結集させ、強みを活かし、課題に対してチームで対応します。

グランドデザイン実現のための授業改善・学力向上に係る
教育指導課の学校訪問（22年9月～12月実施）

▼「伴走の約束」の自己チェックシート 平均点（23年1月10日）

カテゴリ	ステップ	項目	番号	説明	平均
学校現場と の約束	ステップ1	*主体的に学校現場を知る	1	学校現場が置かれている状況や生徒の様子、目指したい方向性などを 知ることができましたか。	3.0769
			2	学校現場への深い理解と尊重を持ちながら、関わる ことができましたか。	3
			3	意見を押し付けるのではなく、学校現場に寄り添う ことができましたか。	2.6923
			4	関係者の願いや意志に耳を傾け、共に考える 姿勢を持ちながら、関わる ことができましたか。	3.0769
	ステップ2	*対話的に共に考える	5	新しい視点や切り口の提供、また、具体的な事例共有や 提案を行うことが できましたか。	2.5385
			6	常に取組が進化していくことを目指し、関わる ことができましたか。	2.3846
			7	新しい視点や切り口を提供できるよ うになるため、日々学び続け、自 らの専門性を磨くことができましたか。	2.6154
			8	学校現場の多種多様な課題を共有し 合い、知恵を結集させ、強みを活 かし、課題に対してチームで対応す ることができましたか。	2.5385
私たち自身 との約束	自らの専門性を磨く チームで対応する				

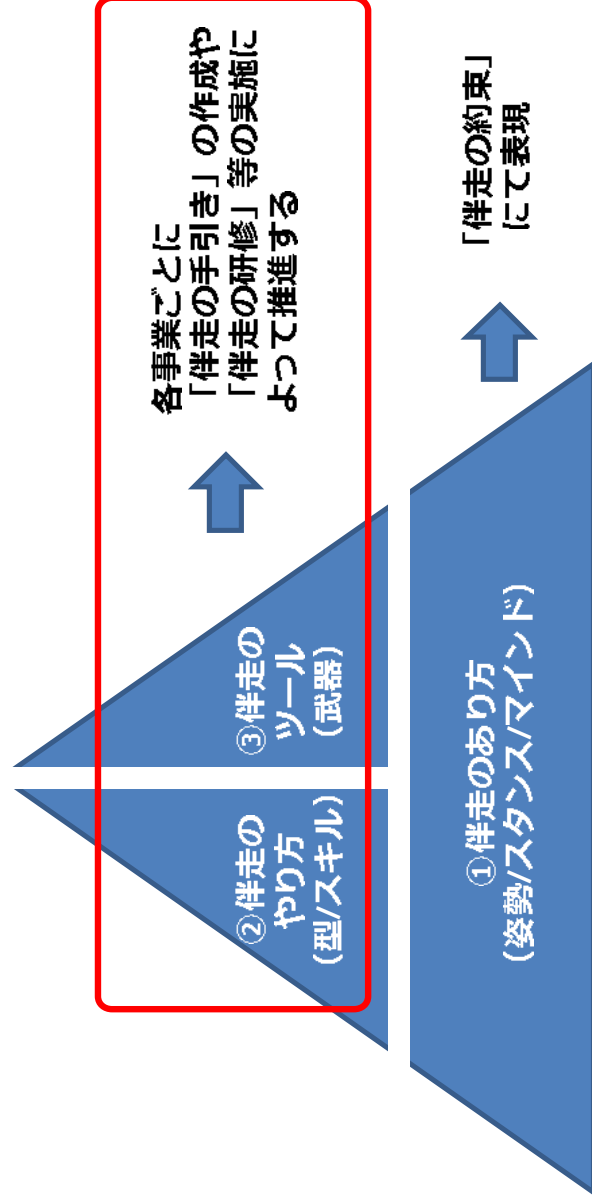
【良い点】

- ・ 現場に耳を傾け、共に考える姿勢を持って接する関わり

【課題点】

- ・ 新しい視点や切り口を提供し、深い学びにつなげる関わり
- ・ 互いの強みを活かし、チームで対応していく関わり

「伴走の約束」策定プロジェクトで取り扱う範囲



1. 「学校伴走のための勉強会」の実施

- ・ 伴走を担うスタッフ向けの勉強会を実施し、学校現場の様々な課題に対して、多角的な視点での対応・支援ができる素地を整える。
- ・ また、教育庁内において誰が何に詳しいのかを知り、教育庁内で相談ができる体制を整える（教育庁のチームワークを向上させ、学校現場に対してチーム対応ができる体制を整える）。

※従前の指導主事会とも連携

2. 「伴走支援ツール」の開発・充実

- ・ スタッフが現場への伴走をしていくにあたって、活用できるツールを開発し、その内容を充実させていく。

※すでに開発済みのツール：高校魅力化ルーブリック、学校カルテなど

75

▼「学校伴走のための勉強会」実施

第1回勉強会（キックオフ）

【日 時】 4月13日（木）13時30分～15時30分@県庁講堂
 【テ-マ】 県立高校魅力化ビジョンと国の動き・島根県の動きについて
 【講 師】 教育監、特命官、指導課調整監、企画課調整監
 【参加者】 33名（指導課、企画課、教育センター、社教課、保体課、特別支援）



【感想抜粋】

- ・ 国や県の最新の動きがわかり、大変勉強になりました。今後、高校魅力化をさらに進めていくうえで、多様な学校の要望を把握し、チームで対応していくことが大切であると、私も思います。
- ・ これまで他課に協働、生徒に協同（共同）を求めながら、やはり私たちも協働するのがよいし、その方が確実によりよい方法を導き出せると思います。
- ・ 学校現場でも説明を受けていた内容を含んでいたのだと思いましたが、改めてお話をうかがい、自分がいかに理解していなかったかということがよくわかりました。また、全体像が少し見えてきた気がします。
- ・ 具体的な取り組みについて知りたい。例えば今日の勉強会であった「これは矢上高校の例だが…」というような感じでした。

第2回勉強会（知識編）

【日 時】 5月12日（金）11時～12時@オンライン
 【テ-マ】 普通科改革の最新線 ～魅力化コーディネーターの役割～（グループ自己紹介・国/県の動き・取組事例の共有・質疑応答）
 【講 師】 隠岐島前高校 教育魅力化コーディネーター
 【参加者】 13名（指導課、企画課、教育センター、社教課、保体課、特別支援）



【感想抜粋】

- ・ 現場（隠岐島前）のお話しが聞けて大変よかったです。
- ・ コーディネーターの方の業務がかなり学校経営、教育課程に関わっていることがわかりました。
- ・ 学校にいたものの立場で見ると、教員の意識を高めることが軌道にのせる必要条件なのかとも感じました。
- ・ 教育庁が「伴走」する多くの学校は、それぞれ魅力化に課題を持っていると思います。その課題を共有することも必要と思いました。他校の進捗状況、うまくいっていない学校の課題も、教育庁がチームで伴走する上では共有が必要だと感じます。
- ・ 参加者間での交流もとても良かったです。

76

リソース調達 × リソース活用 対話 × 協働

79

今日の流れ

社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

1. 「より良い組織」について考える
2. 「より良い組織づくり」の事例共有①
～福島県立ふたば未来学園高等学校～
3. 「より良い組織づくり」の事例共有②
～島根県教育委員会～

4. まとめ

80

社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

より良い組織とは何か？

ハードな側面 × ソフトな側面

コンテンツ × プロセス（冰山モデル）

プロセス・ロスをなくす

組織の一致性・一貫性・エコシステム

リソース調達 × リソース活用

対話 × 協働

私は組織をより良くしていく存在であると同時に、
組織の一員でもある。

【4つ目の問い】

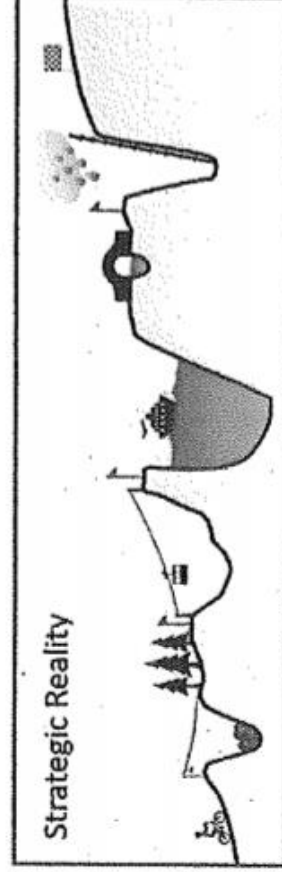
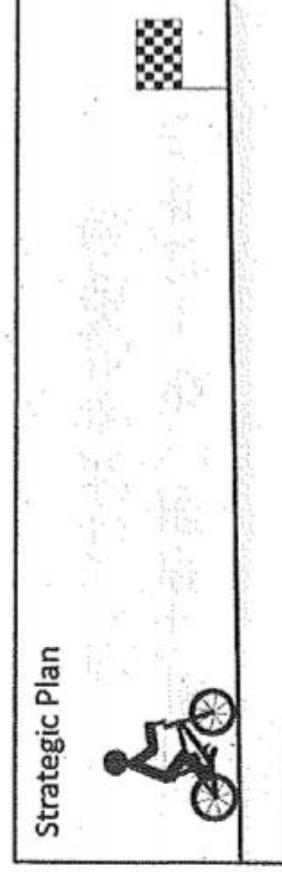
あなたはどんな組織（学校）を
創っていききたいですか？

83

探究学習のイメージ

理想と現実が大きくかけ離れていたことに気が付く

理想と現実



「探究」

物事の真相・価値・在り方などを深く考えて、すじ道をたどって明らかにかにすること。
「真理を探究する」

〔同音語の「探求」は手に入れようとしてどこまでも探し求めることであるが、それに対して**「探究」は深く考えて物事の真相・在り方などを明らかにかにすること**をいう〕

**大人たちの試行錯誤自体が「探究」であり、
児童・生徒にとつての「モデル」になる。**



ご清聴、ありがとうございます！

長谷川勇紀

アドレス：yukihasegawa0211@gmail.com

Facebook：長谷川勇紀